

福岡県立ひびき高等学校 平成31年度 学校自己評価表 (定時制課程)

(計画段階・実施段階)

福岡県立ひびき高等学校長 印

17

学校運営計画(4月)

評価(3月)

昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標
創立90周年を越え、単位制・三部制高校としての本校の存在意義は地域において一定の評価を得ている。さまざまな学びのスタイルとサポートが提供されていることに対する期待は大きい。 新学習指導要領の全面実施を控え、その理念である「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく必要がある。また、生徒に社会の形成者としての自覚を促し、「なぜ学ぶのか」という問いを生涯持ち続け、将来にわたって学び続ける姿勢を育む必要がある。	授業改善	「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有する 基本的な知識・技能を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成するとともに学びに向かう力や人間性を涵養する
	心の教育の推進	HR活動、体験活動や地域との交流を通して心の教育を充実させ、規範意識、倫理観、道徳心、人権意識などを醸成する ボランティア活動を推奨し、社会とのつながりを自覚させる 教員研修、特設人権教育のあり方を検討し、本校にふさわしい人権教育を推進する
	学びあい、支えあう教職員集団作り	教育活動を通じて互いに高めあい、教師力を向上させる 情報交換を活発にし、教職員自らが学びに立ち向かう 教職員がチームとして多様な生徒へ対応することで不登校や中退の抑制・防止を目指す
	新学習指導要領全面実施への準備	「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」の理念実現のための具体的方策を推進する 総合的な探究の時間の活性化をとおし、学ぶ意欲を育成する 働き方改革のなかで教職員が生徒一人一人に接する時間を確保する
	ユネスコスクールの取組の推進(E S Dの推進)	環境教育、国際理解教育を推進し、地域活動や生徒海外研修などの交流活動に積極的に参加する 道徳心や規範意識を身に付けさせるとともに、社会で求められる資質・能力を育む E S Dの取り組みを地域に発信し、地域における本校の存在意義を自覚させる

部	本年度重点目標
教務部	○単位修得率を80%以上を目指す 不断の授業改善が出席率向上に繋がり、学びに向かう力を育てていく。生徒理解に努めや電子黒板や図書館等の活用によりアクティブラーニング等の授業を実践していく。 ○広報の充実を行う 入試相談がより適切に行えるように、研修会等でスキルアップする。中学校訪問や体験入学会、HP等で常に情報の発信を行う。 ○連携強化 職員の連携強化を目指し、情報共有できるために、早く正確な月別行事予定など作成して、報連相の一助とする。保護者教師会や同窓会とも適切に連携を深めていく

課	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務課	前期・後期合計の単位修得率を80%以上とする。(前年度実績76.6%)	一部欠課の抑制や欠課時数オーバーの未然防止などに努め、出席率向上にいっそう力を入れる。 生徒が授業に対して主体的・前向きに取り組めるよう、講義室等の学習環境を整える。 電子黒板やプロジェクター等のICT機器を用いた、生徒の興味関心を高め理解しやすい授業を推進する。		
	様々な情報・資料の提供や、諸様式・システム等の改善を実施し、教職員の教育活動の円滑化に資する。	ホームルーム活動等での指導に活用できる情報・資料を提供する。 教務関係の諸様式やシステム、手続き等を見直し、より簡略化・明瞭化する。 生徒意識調査を年3回実施し、生徒の実態を把握し提示する。		
	入試相談・願書配付を教務部や校務運営委員が円滑に実施できる体制作り	入試業務研修会を年1回(週3コマの枠を設けて)実施する。 教務部の入試相談・願書配付の研修を3回行う。 入試相談割を年2回、願書受付割を年4回(後期・I期・II期・転編)作成する。		
入試広報課	広報活動の充実による志願者数10%の増加	中学校訪問を年1回行い、中学生進路相談事業(2・3学区)に参加する。 学校説明会と体験入学会を年1回実施し、中学校の高校説明会に20校以上参加する。 ポスターと学校案内パンフレットを年1回作成し、学校HPを年100回以上更新する。		
	他分掌との連携を図り、業務や行事が円滑に行える体制づくり	他分掌との連絡・調整を密にし、業務や行事の円滑化を図る。 月別行事予定を1ヶ月前に知らせる。 前年度の反省点を踏まえ今年度の計画を立案する。		
庶務課	図書教育の活性化と保護者教師会の充実	学校図書館の活用や視聴覚機材を活用した授業の促進。 役員会や執行委員会への積極的な参加を促し、保護者との連携を図る。 総会出席率と委任状回収率の向上を目指す。		

部	本年度重点目標			
生徒指導部	1 第3次ひびきプラン「ひびきたほめ」を推進し、学ぶ意欲・自己実現力・コミュニケーション能力を育成し、健全な社会の形成者としての自覚を持たせる。 2 規範意識の向上、人間尊重の精神を育成し、互いの存在を認め、安心・安全な学習環境を確保する。 3 学校行事、生徒会企画を通じて学校・家庭・地域社会との連携を強化する。			
課	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
生徒指導課	基本的生活習慣の確立	遅刻の防止（新ルールの浸透）。 「マナーアップひびき」を第5段まで実施する。 トラブル未然防止。		
	学校行事、生徒会活動の活性化	ボランティアの単位化を活用し、ボランティア参加者を増やす。 生徒会役員を中心としてPTAと協力し、校外清掃活動を行う。 学校行事の充実を図り、行事出席率を80%以上にする。		
修学課	不登校や中途退学の未然防止・抑制の支援体制の確立化を図る	「3・6」ルールにかかる教科担当のタッチパネル入力、担任報告をその都度行う。 いじめアンケートは毎月1回、家庭用チェックリストは年2回行う。 生徒情報交換会の情報が直接、教員の手助けとなるように有意義な会を目指す。		
	生徒理解・教育相談の充実を図る	30%ルール抵触生徒、合理的配慮を要する生徒については、他分掌と協力する。 研修部と連携して生徒理解・教育相談の研修会を行う。 学校の立場を明確にし、専門職との連携を的確に図る。		
保健課	清掃活動等、教育環境の整備に向けた取り組みを図る。	「クリーンアップひびき」を月1回実施し、生徒全員で清掃活動を行う。 掃除道具の点検・整備を前後期1回実施し、校内美化活動を充実させる。 毎日の清掃に率先して参加するよう授業やHRでの呼びかけを行う。		
	保健室経営を充実し、個別の健康相談に対応できるようにする。	諸検診が円滑に実施できるようにし、受診率100パーセントを目指す。 SCや訪問相談員と連携し、組織的な支援を行う。 個々の生徒に寄り添うため、教員間での情報の共有を図る。		

部	本年度重点目標			
ガイダンス部	自己を見つめ可能性を発見し、進路について関心を高めさせる。 目標とする進路に関して理解を深め、進路実現へ向け学ぶ力を育む。			
課	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
ガイダンス課	進路ガイダンス行事を積極的に活用する生徒の育成	事前指導の2回以上の実施 3講座以上の講座の入れ替えおよび精選 時間割作成につなげる事後指導の実施		
	進路実現のための適切な時間割作成ができる生徒の育成	校内研修会の4回の実施 ガイダンスプロジェクトの活性化 学習ガイドブックの改訂・見直し		
進路指導課	キャリア教育を念頭においた卒業後の進路を実現する生徒の育成	進路目標の早期設定 進路情報の提供 模擬試験の受験推進と結果の分析		
	自らの進路について主体的に考え、学力の向上を図る	個別指導の推進と体系化 長期休業中における特別講座の充実 HRでの講演会の実施		
進路渉外課	適切な勤労観・職業観を持った生徒の育成	インターンシップ（在校年次）の充実 進路学習として講演会の積極的活用 就職内定率の向上（2月末に90%以上）		
	長期的視野に立った進路意識を持った生徒の育成	奨学金制度の周知・活用 資格取得率、検定合格率の向上 オープンキャンパス等の紹介および積極的活用		
部	本年度重点目標			
研修部	生徒にとって魅力ある学校教育活動を展開するため、教職員の専門的資質を高める支援の充実を図る。 授業研修や相互授業参観、生徒による授業評価を実施し、教職員相互の情報交換や互いに学び、支えあう集団作りの推進を図る。 各種研修会や公開授業の運営については、他の分掌等との連絡調整を図りながら、教職員のニーズ等に応じた内容の充実を図る。 生活体験発表等の行事の効果的な実施により、本校で学ぶ意義や喜びを確認させていきながら、「学びに向かう力」の育成を図る。 SDGsに関する教職員の理解を深めるとともに、ESDの観点から教育活動をとらえることができるようにする。生徒海外研修等の諸活動については、生徒が主体的に参加できるよう企画・運営を行う。			
課	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題
研修課	授業改善の推進	授業改善研修会（年2回）の充実 生徒理解を深める研修会（年2回）の実施 授業改善に向けた校外研修の企画・推進		
	授業力・教師力の向上	相互授業参観（年2回）の充実と参加率の向上 授業評価（年2回）の効果的な運営 公開授業（年2回）の効果的な運営		
ESD課	ユネスコスクールとしてのESDの推進とSDGsの導入	ESD授業週間の実施（年1回） 関連講演会の実施（年1回） ESD教育につながる外部団体実施の活動や研修への積極的参加（随時）		
	Think globally, act locallyをテーマとした諸活動の実践	環境シンポジウムなどでの発表、展示（年1回） 国際交流の効果的な受入（随時） 生徒海外研修の実施（年1回）		

部	本年度重点目標				
年次部	規範意識を確立させ、基本的な生活習慣を身に着けさせる。生徒一人一人の自己実現に向けて、自ら学ぶ態度及び自ら考え行動できる資質を養う。年次の教員間および保護者との連携を緊密に行い、迅速かつ生徒にとって適切な対応を心がける。				
年次部	具体的目標	具体的方策	評価（3月）		次年度の主な課題
新入年次	家庭・地域との連携を図る	年次通信の発行や保護者会を実施する。 ボランティア活動や地域の行事へ参加する。 電話連絡、家庭訪問を行う。			
	「時を守り、場を清め、礼を正す」の実践により、社会に適する能力の育成に努める	「5分ルール」の遵守、提出物の期限厳守を指導する。 職員室内での言葉遣いを正す。 挨拶の定着のため、教員から第一声を発する。			
在校年次	授業出席率75%以上、単位修得率80%以上、問題行動の前年比10%減を目指す。	個人面談を随時行う。 修学課、SC、SSW、訪問相談員との緊密な連携を図る。 保護者との連絡・家庭訪問を適切に行う。			
	自らの個性や適性に応じた学びや自己管理ができる生徒を育成する。	タッチパネル指導を行う。 校外模試・検定試験受検やインターンシップ・ボランティアへの積極的な参加を促す。 進路目標を明確にさせる。			
卒業年次	年次部職員全員で生徒の個性や能力・適性に応じた始動をすることで、希望進路を実現する	個人面談を随時行う HR・総学の時間に進路学習を5回実施する 年次通信を7回発行する			
	様々な機会を利用して生徒の自己管理能力を高め、社会人としての実践力を身につけさせる	進路面接を3回以上組織的に実施する 就職模試、校外模試等を積極的に受験させる 人権学習等を活用し、人権意識を涵養する			